

子どもたちは小さい頃から園庭の花に触れたり、動物に餌をあげたり、生まれたてのわいわいヒヨコなどに出逢い、そのような実体験を踏まえた上で絵を描くようになると、例えば「僕の描いた絵のチャボでも心がある、風邪をひいたらかわいそう…」と、羽がフサフサに描かれことがあるそうです。それは写実的な絵を描く事や、大人から見て上手いと思われる絵を描く事を目的



園庭にある四季折々の草花や樹木、
様々な小動物たちが「絵」を通して
子どもたちの心を育てています。

広島県の誠信幼稚園で
は、園の代表的な取り組みと
して絵画表現活動が行われて
います。今まで在園児や卒園
児たちが様々な絵の大会で入
賞してきたことから「お絵か
きばかりの幼稚園」と勘違い
されることもあるそうですが、
園長の繩稚先生にお話を伺う
と全く異なる「思い」や「意図」
があることが分かりました。

にしているのではなく、絵を描くことによって培われた感性と探求心から『自分以外のものに心を寄せる』という心育ちを大切にしているからだと思います。だと園長は仰ります。

貼られ、患者さんから「絵を頼
ていると元気が出ます」と
言われるそうです。それは誰かに
描かされた絵ではなく、子供
の想いや声が聞こえてくる
ような、その子らしいイキイキ
とした心が表れているからな
のだと感じます。私たちも心
や想いが届くような働きを本
切にしていきたいと思います。

心の表現

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
3号館10階



第97版

理念と実践で
縛を結びます

学び合い

ナードを織り交ぜたお名前の中のエビソードを聞いて私もやつてみた。保育への意欲につながりました」とありました。

実践発表をしてくださった

『第44回保育環境セミナー』を開催し、全国から150名程の先生方にご参加頂きました。プログラムの一つ実践発表では、今回、滋賀県ののみち保育園様に、「ののみち保育園 Before→After」を題し、「大人の保育への向き合い方」、「子どもの姿」、「就学前の子どもの姿」の観点から発表して頂きました。

「のニビソードを織り交せたお話を聞いて私もやつてみたとい！」と保育への意欲につながりました。』とありました。

セミナー参加者の皆様に配布された上記3つの視点からまとめられた資料からは5年間の数々の挑戦や、現在の保育園の光景が目に浮かぶものばかりでした。

職員だけでなく、他園にとても保育を見直すきっかけになつてもらえたという思いで発表して下さいました。私たちも先生方のように、日々実践を積み重ね、共有し

セミナーにご参加頂いた皆様からのアンケートには、「実践報告でそれぞれの園が行っている取り組みを見られてよかったです。自分がしている保育を見直していく」と思いました。」「園児学や普段の保育で



【保育環境セミナーの会場】
今年度は9月、10月にも
保育環境セミナーの開催
を予定しています。

担当した加藤先生は「平成年から施行される保育所保指針と照らしながら、子どもたちは何気ない日常の中で字に親しみ、指針がこうしているからこうすることをついています。と保護者に伝えます。指針がとより伝わります。指針がらのやっていることの後押しされることとなり、「文字」ということをえることができます。」と仰ました。

本誌、第94版に引き続き
竜塾年間講座の文字講座
が行われました。講座では「
育者のためのはじまりシリ
ーズ」(くわんのはじまり) (学
研究社)の内容が用いられ、
回は23ステップあるうちの
14ステップについて講座
を行われました。

担当した加藤先生は「平成年から施行される保育所保指針と照らしながら、子どもたちは何気ない日常の中で字に親しみ、指針がこうしているから、こうすることをつけています。と保護者に伝ります。より伝わります。指針がらのやつていることの後押となり、文字といふことをえることができます。」と仰ました。

その一例として、最近TVでよく取り上げられている将棋についての紹介がありました。将棋はまさに字を読み、相手の心理も読み取り、子どもたちにとって適切な遊びかもしません。駒の動きが最近のものでは書いてあり、桂馬だったらこう進めばいいとか、(矢印の動きの把握は標識の認識のこと)遊びが展開して、手作りの9マス将棋というもののも

んでいきました。今回、講座担当した加藤先生は「平成年から施行される保育所保指針と照らしながら、子どもたちは何気ない日常の中でも字に親しみ、指針がこうなっているから、こういうことをついています」と保護者に伝えていきます。

その一例として、最近TVでよく取り上げられている将棋についての紹介がありました。将棋はまさに字を読み、相手の心理も読み取り、子どもたちにとって適切な遊びかもしません。駒の動きが最近のものでは書いてあり、桂馬だったらこう進めばいいとか、(矢印の動きの把握は標識の認識のこと)遊びが展開して、手作りの9マス将棋というもののも



【背中文字伝言ゲーム】
講座のワークショップの一環としてチーム戦で行いました。

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新
聞は、「子ども第一主義」の理念をカタヤクルーの日々の出来事からの内
省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたも
のです。記事中はそのまま実践することを優先し、乱筆乱文で恐
れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

CCN

Caguya Company News

カグヤニュース



日本各地から「子どもたちに残していきたい未来」の想いのもと、集って下さっています。



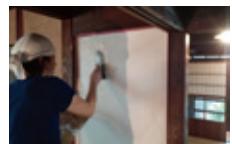
YouTubeでの再生回数も100人を越えました!

先月のときめきムービーの「聴福庵」編。YouTubeに載せられるように著作権など問題のない音源を選んで作ってみたところ、今までお伝えすることができるようになりました。

今、聴福庵では日本古来から伝承さ

※カグヤでは、クルー同士別々の場所にいても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

お陰様を形に



漆喰は、塗るだけでなく、昔ながらの漆喰づくりから体験!



築200年の古民家から譲って頂いた漆喰を1本1本天井に…

先月、数名のクルーと一緒に福岡にある古民家「聴福庵」に行きました。今回も、厨房の天井を漆喰(すすだけ)に変えたり、壁をベンガラや漆喰で塗ったり、井戸を掘つたりと、実際に様々な種類の仕事をさせて頂きました。

そんな中で改めて思うのは、特性を活かすことの大切さ。仕事が大胆だったり繊細だったり、スピードが速かったり遅かったり、「気に集中する」太く短く「タイプ」や、ちょっとずつ長時間続ける細く長く「タイプ」背が高い人は

高いところに手が届き、小さい人は狭いところでも体が入つたり、力持ちは重たいものが運べたり…。他にも、差し入れや声掛けなど、周りの仲間に対してよく気が効くタイプなど、多種にわたる古民家再生の仕事の中で、クルーのタイプも多種多様あることに気付きます。

古民家再生に限らずですが、働くことは、ひとりでは難いことばかり。特性もこんなに違うのであれば、皆が一律にできるようになることを目指すではなく、それぞれの特性を活かし尊重し合いながら、違うからこそその豊かさを楽しめたらと思います。



ついに箱庭の井戸も再生が!以前、誰かによって埋められた深さ6mほどの井戸を少しづつ掘り起こしていきます。

違うからこそ

暑い日が続く中「夏バテしそう」と身の危険を感じ、自宅で甘酒をつくることに。甘酒は、冬のイメージがありましたが、実は「夏の季語」もあり、「飲む点滴」と言われるほど栄養価が高く、江戸時代には「甘酒売り」が町で売り歩いていたそうです。つくり方は、おかゆ状態に炊いたご飯に米麹を混ぜ、保温状態で(55度くらい)晚おくだけ。甘酒のもと「甘麹」のできあがり♪寝ている間に麹菌が活躍し発酵してくれるので、

夏には甘酒を

先日、福岡の古民家「聴福庵」の庭にあった古井戸を甦生するために社員みんなで手掘りで井戸を掘りました。今ではボーリングという技術が西洋から入ってきたため、昔のように手掘りで井戸を掘り抜くことを知つてくださっています。

そして最近ではそのYouTubeの動画を見て、「こんなことならば、これは私のやるべきことだから」と日本で唯一400年続く唐紙の職人様からもご協力を頂けることとなりました。大切な理念実践の機会を頂いているのだからこそ、発信することや形にしていくこと

のであつたからです。その井戸に感謝して、水神様、井戸神さまをお祀りしていくも清淨に祈りながら感謝して暮らしてきました。毎年7月7日には欠かさずご近所の人たちがみんなで集まって力を合わせて「井戸さらい」といって感謝の清掃をしていたといいます。子どもたちはこの大人たちの暮らしの中から本物の文化や日本の精神を学び、その後の人生に大きな影響を与えてきたのです。まさに教えずに教えるという、日本の伝統的な学問の力

日本は私たちの日本の精神を磨かせ、日本本の道具や暮らしはそれを活かすことによつて文化を伝道してきた継承の仕組みを支えていました。引き続き、子どもたちに譲り遺していただきたい場と間と和を私たちの保育環境から発信していきたいと思います。



先人たちの知恵の飲み物「甘酒」で、美味しく楽しく、暑さを凌ぎます!

とっても簡単! 水粕ではなく、米麹でつくるこの甘酒はアルコールも含まないため、子どもも妊婦さんも飲める安心飲料。この夏は、社内でも愛飲したり、お客様へもお持ちしています。

い、日本ならではの麹のチカラを借りて、皆で元気に夏をのりきつていけたらと思います。

れてきた様々な文化、技術、知恵をお持ちの皆様が、「ここ」でなら本物の面白い仕事ができる!」と続々とお力を貸してくださります。

ください、再生を通じて、一緒に子どもたちに残していきたい未来を紡いでくださっています。

そして最近ではそのYouTubeの動画を見て、「こんなことならば、これは私のやるべきことだから」と日本で唯一400年続く唐紙の職人様からもご協力を頂けることとなりました。大切な理念実践の機会を頂いているのだからこそ、発信することや形にしていくこと

からこそ、発信することや形にしていくことの大切に。お陰様を忘れないようにしていきたいと思います。

掘り進めながら出てきたものは、前の住人の方の遺品やガラス、陶器、金属の破片や井戸蓋、鉄筋コンクリートなどです。昔の人たちは水神様として井戸を大切にしてきたといいますが、子どもたちに負けないぐらい充実した

編集後記

今月も竹取新聞をご覧頂きまして、誠にありがとうございました。暑さ本番ではありませんが、子どもたちに負けないぐらい充実した日々をお過ごしください。



カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

本社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)